リスク種　　（9 目 10 科）

リスク種 1（18 種）		
カモ目カモ科 シジュウカラガン マガン ヒシクイ コブハクチョウ オオハクチョウ コハクチョウ オシドリ キンクロハジロ ※重度の神経症状が観察された水鳥類	タカ目タカ科 オジロワシ オオワシ オオタカ ハイタカ ノスリ サシバ クマタカ チュウヒ ハヤブサ目ハヤブサ科 ハヤブサ チョウゲンボウ	◆ 主に早期発見を目的とする。 ◆ 高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1 亜型）に感受性が高く、死亡野鳥等調査で検出しやすいと考えられる種。 ◆ 平成 22～23 年の発生において感染確認個体数が多かったオオハクチョウ、キンクロハジロ、オシドリ、ハヤブサを基本に、ハクチョウ類、ガン類、タカ類の主な種を含める。
リスク種 2（17 種）		
カイツブリ目カイツブリ科 カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カモ目カモ科 マガモ オナガガモ ホシハジロ スズガモ トモエガモ	ツル目ツル科 タンチョウ ナベヅル マナヅル ツル目クイナ科 バン オオバン チドリ目カモメ科 ユリカモメ フクロウ目フクロウ科 ワシミミズク コノハズク	◆ フクロウさらに発見の可能性を高めることを目的とする。 ◆ 過去に感染死亡例のある種をより幅広く含める。
リスク種 3		
カツオドリ目ウ科 カワウ ペリカン目サギ科 ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ等全種 カモ目カモ科 カルガモ、コガモ、ヒドリガモ等（リスク種 1、2 以外全種）	チドリ目カモメ科 セグロカモメ、ウミネコ等（リスク種 1、2 以外全種） タカ目 トビ等（リスク種 1、2 以外全種） フクロウ目 コミミズク等（リスク種 1、2 以外全種） ハヤブサ目 コチョウゲンボウ等（リスク種 1、2 以外全種）	◆ 感染の広がりを把握することを目的とする。 ◆ 水辺で生息する鳥類としてカワウやサギ類、リスク種 1 あるいは 2 に含まれないカモ類、カモメ類、タカ目、フクロウ目、ハヤブサ目の種を対象とした。
その他の種		
◆ 上記以外の鳥種すべて。 ◆ 猛禽類以外の陸鳥類については、ハシブトガラス以外は国内では感染例が知られておらず、海外でも感染例は多くないことからその他の種とする。 ◆ 多数の死亡が見られた場合や平成 16 年のハシブトガラスのように感染死体を食べた等、感染が疑われる状況があった場合に検査することとする。		

※ 重度の神経症状とは、首を傾けてふらついたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような状態で、正常に飛翔したり、採食したりすることはできないもの。